

大分県別府市 城島高原G.C.でさわやかプレー

酷暑も快適に

標高約630～660メートル 平地より気温5度低く暑さ知らず

戦略性十分のコース
四国・香川から21歳で城島高原（当時カントリークラブ）に入社した鈴木規夫プロ。以来53年にわたって同コースで腕を磨き、またジュニア育成やゴルフ振興の拠点としてきた。

鈴木「城島高原の一番の魅力は気持ちがいい、心地いいところ。僕が好きなのは7番ホールで、グリーンから振り返ると、右に鶴見岳、左に由布岳。どちらも男性的な姿でそびえ、まさに絶景です。この自然美が城島の最大の魅力とと思う」

別府駅からやまなみハイウェイで約20分。爽やかな風が吹き抜ける高原の18ホールは阿蘇くじゅう国立公園の霊峰・由布、鶴見の両座に抱かれるように広がる。鈴木「コースは少し難しく、戦略的というか、考えて攻めなきゃいけない。グリーンもプロトーナメント開催を前提に改造したので凄く難しくなった」

全体にフェアウエーは自然なアンジュレーションがあり、ベント芝のグリーンは広く、うねりや傾斜があり、特にロングパットの距離感難しい。アウトは思い切りドライバーを振っているストリートなホールが多く、インは谷越えや池越えなどややトリッキーなレイアウトが特徴。中でも眼下の谷に向かって打ち下ろす最終18番パー4（386ヤード）は強烈な印象を残す「名物ホール」である。スタート前に利用する練習場も100ヤードながら12打席あり、アップロッチエリア、バンカーエリアも充実

酷暑もマイナス5度の快感ノ夏でも快適にプレーできると人気が高い大分県別府市の城島高原ゴルフクラブ。標高約630～660メートルに位置し、平地より気温は5度ほど低く、暑さ知らずで夏場の来場者は大分県トップ3に入る。同クラブを拠点に国内20勝を挙げ、現在はジュニア育成に取り組む鈴木規夫プロ（74）にコースの魅力と特徴を聞いた。（中島 泉）

城島高原G.C.の魅力
を語る鈴木規夫プロ



国内20勝 鈴木規夫プロが語る

◇鈴木 規夫（すずき・のりお）1951年（昭和26）10月12日生まれ、香川県出身の74歳。坂出高を出て21歳でプロテストに合格し、別府に拠点を移す。歯切れのいいショットで「九州の若鷹」の異名をとり、74年から当時公式戦の九州オープン5連覇。76年初挑戦の全英オープン初日に日本人初の首位に立ち、最終10位に入る快挙を演じた。80年にはペシ宇部、美津濃、東芝太平洋マスターズなど年間4勝を挙げると国内20勝（ツアー16勝）。草野忠重、入江由香、牧坂考作、大久保夢未ら多くのプロを育てた。1勝71、71勝。

大観で
ホテルと
谷に向か
右に城島高原ホテルと大観
展望車を望み、谷に向か
豪快に打ち下ろす18番



同クラブの麻生将太支配人は「夏場の涼しさはプレーヤーに快適なのはもちろん、芝やグリーンの生育にも好条件です。コースコンディショニングが良いこともあり夏場は大分県内でベスト3の来場者数があります」と話す。コースには城島高原ホテルと、日本初の木製コースター「ジュピター」が人気の城島高原パークが隣接しておりファミリィで楽しむゴルフファームも夏場は増える。ゴルフ界のレジェンド・鈴木規夫プロが育ち、愛し、手塩にかけたリゾートコース・城島高原ゴルフクラブに、この夏あなたもトライしてはいかが？

お得な宿泊パック

○：隣接する城島高原ホテルを利用した1泊1プレーのゴルフ宿泊パックが好評だ。ホテルでの夕・朝食と、ゴルフ場で昼食の3食付きで平日泊、平日プレーが2万1880円から（乗用カーセルフ、8月は同2万4880円から）。平日泊、土日祝日プレーは2万7180円から。部屋タイプや人数によって料金は異なり、適用除外日もある。予約・問い合わせは同ホテル☎0977（22）1162へ。

【城島高原ゴルフクラブ】
▽所在地 大分県別府市城島高原123
▽開場 1975年（昭和50）7月
▽設計・監修 鈴木規夫
▽ヤーデージ バック67

51ヤード、レギュラー6305ヤード、パー72
▽通常料金 ビジター
平日9500円、土日祝日1万4800円（乗用カートセルフ、昼食付き）
▽アクセス 車は大分

自動車道湯布院インターから約25分、由布岳スマートインターからは約8分、別府インターからは約15分でコースへ。JR別府駅、由布院駅から路線バスでいずれも約35分

由布岳の雄大な姿を望む城島高原G.C.1番ホールグリーン

